

科目名	多国籍企業論特講	担当者	モロカミ 諸上 シゲト 茂登	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代の多国籍企業をめぐる政治経済的および経営的環境を理解するとともに、多国籍企業の基本的な戦略ロジックと組織の特徴を把握することで、日本企業のグローバル化の方向性と方策を探ることを目的とする。</p> <p>現代の国際市場は多くの人が信じているほどグローバル化されておらず、市場の部分統合と各国政府規制が併存する、いわゆるセミ・グローバリゼーションの状態にある。ここでは依然として各国・各地域市場の文化的、制度的、地理的、経済的隔たりが大きな影響を与えている。こうしたことを踏まえると単純でフレットなグローバル化戦略には大きな限界があり、今一度、国境や文化を超えることの影響の重大性に立ち返った国際経営戦略の再構築が必要である。さらに、日本企業は「技術で勝っていても事業で負ける」ことが少なくなく、より強かな経営戦略の構築が求められる。本講座は上述のような課題について理論的、実証的に接近することを目的としている。</p>		
到達目標	<p>現代の多国籍企業の戦略と組織の基本的問題や課題を理解することで、日本企業の国際化、グローバル化についての有効な戦略立案をおこなう能力を涵養する。より具体的には、先進国市場の深掘りと新興国市場開拓にとって有用なさまざまな知見を得ることを目標とする。</p>		
学修方法	<p>基本的には文献サーベイによる学修であるが、本学の Web を活用した学習システムを通して受講者との意見交換、指導等を行いたいので、積極的なアプローチを期待する。</p>		
スケジュール	<p>草稿に対する指導者のコメントに基づいて何度かの原稿修正を行うことになるが、このプロセスを出来るだけ早く始めること。特に第一回目レポートのやり取りで、求められる基本的なレベルや記述要領を掴むこと。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容の十分な理解と共に、関連文献の渉猟と事例の収集がなされているかを基準とする。
	平常評価	20%	草稿提出から最終稿の受理に至るまでの取り組みの姿勢を総合的に評価する。
履修者への要望	<p>各期のレポートの草稿提出は出来るだけ早く行い、双方向コミュニケーション、指導期間を確保すること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： パンカジ・ゲマワット著『コークの味は国ごとに違うべきか』（文藝春秋，2009年）            教材名： ISBN:978-4-16-371370-0 1,905円+税</p> <p>現在の国際経済ならびに市場はフラットなグローバル化に向かっているのではなく、今後も統合化と各国政府規制が併存するセミ・グローバリゼーションの状態にとどまると予測される。また、中国、インド、ブラジル、ロシア、南アフリカなどの新興国の影響力が一段と増している。そうした中、多くの多国籍企業は新興国市場開拓に注力するのはもちろんのこと、その国際的拠点配置やネットワークの優位性を活かして最大限の効率と効果を獲得できるようにグローバル戦略と組織構造の再編成を急いでいる。本書は、制度や文化などの国際ビジネス環境の多様性に改めて着目し、それを制約要因と捉えるだけではなく、それらをより積極的に活用する方法についての多くの有益な示唆を提供している。</p>
参考図書	<p>諸上茂登，藤澤武史，嶋正編『国際ビジネスの新機軸—セミ・グローバリゼーションの現実の下で—』同文館出版，2015年）ISBN978-4-495-38511-8            多国籍企業学会著『多国籍企業と新興国市場』（文眞堂，2012年）ISBN:978-4-83-094768-1 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>ハーバード大学教授（執筆当時）による世界的に有名な著書であり、現代の国際ビジネスの構造と戦略を体系的に学ぶことができる。</p>
レポート課題 1	<p>ゲマワット教授のCAGE分析、AAA分析などを参考としながら、今日の多国籍企業が直面している経営環境の特徴とその競争優位戦略のオプションについて論述しなさい。  <b>留意点</b>：出来るだけ具体的な企業事例を交えたりレポートを執筆すること。</p>
レポート課題 2	<p>日系多国籍企業が抱える重要な経営課題について、一つのテーマに絞って詳しく論じなさい。（各自設定した論題を明記すること）  <b>留意点</b>：教材の要約レポートに終わるのではなく、出来るだけ多くの関連文献を渉猟した学術的小論文として執筆すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 諸上茂登著            教材名： 『国際マーケティング講義』（同文館出版，2013年）ISBN:978-4-49-564611-0 2,300円+税</p> <p>この教材は多国籍企業、とくに日系多国籍企業のマーケティングの戦略の現状と課題について考察したものである。「技術では勝っているのに事業で負ける」という現状を脱するためのさまざまな方策を検討している。</p> <p>第1章国際マーケティングの概念と進化モデル、第2章グローバリゼーションの現実、第3章世界的な産業・競争構造の激変、第4章日本企業の競争力、第5章持続的競争力のある企業の条件、第6章国際マーケティング戦略の基本と典型的イメージ、第7章国際マーケティング・リサーチ、第8章国際製品戦略、第9章国際市場細分化戦略、第10章国際価格戦略、第11章国際プロモーション戦略、第12章国際サプライチェーン・マネジメント、第13章新興国市場開拓、第14章世界から敬愛される人と企業へ。</p>
参考図書	<p>諸上茂登著『国際マーケティング論の系譜と新展開』（同文館出版，2012年）            ISBN:978-4-49-564571-7 3,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>多国籍企業のマーケティング行動の基本的なロジックについてよく理解し、日系多国籍企業のとるべき国際マーケティング戦略の方向性について考察して欲しい。</p>
レポート課題 1	<p>多国籍企業がもちうるマーケティング上の競争優位について論じなさい。  <b>留意点</b>：教材の要約レポートに終わるのではなく、出来るだけ多くの関連文献を渉猟した学術的小論文として執筆すること。</p>
レポート課題 2	<p>日系多国籍企業のマーケティング上の課題を一つ取り上げ、それについて詳しく論じなさい。（各自の論題を明示すること）  <b>留意点</b>：教材の要約レポートに終わるのではなく、出来るだけ多くの関連文献を渉猟した学術的小論文として執筆すること。</p>

科目名	多国籍企業論特講	担当者	コバヤシ セイジ 小林 世治	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現代の多国籍企業をめぐる政治経済的および経営的環境を理解するとともに、多国籍企業の基本的な戦略ロジックと組織の特徴を把握することで、日本企業のグローバル化の方向性と方策を探ることを目的とする。ことに20世紀末から、BRICSを代表とする新興経済圏が本格成長軌道に乗り、それらの国々からも多国籍企業が登場するなど、グローバル化は新たな局面に入った。新興国市場の重要性とその階層的特徴、そして国際競争・提携の新展開に注目したい。また、多国籍企業の国際開発への貢献や、社会的責任にも配慮すべきであろう。		
到達目標	現代の多国籍企業の戦略と組織の基本的問題や課題を理解することで、日本企業の国際化、グローバル化についての有効な戦略立案をおこなう能力を涵養する。とくに新興国市場開拓にとって有用なさまざまな知見を得ることを目標とする。		
学修方法	基本的には文献サーベイによる学修であるが、本学のWebを活用した学習システムを通して受講者との意見交換、指導等を行いたいので、積極的なアプローチを期待する。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題（1）の草稿は7月末、課題（2）の草稿は8月末をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。 後期：教材2のレポート課題（1）の草稿は11月中旬、課題（2）の草稿は12月中旬をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も2017年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容の十分な理解と共に、関連文献の渉猟と事例の収集がなされているかを基準とする。
	平常評価	20%	草稿提出から最終稿の受理に至るまでの取り組みの姿勢を総合的に評価する
履修者への要望	まず教材それ自体をしっかり読んで、疑問点などをメモしてください。レポートの作成はその次です。ネット検索は適切に行えば「力」になりますが、安易なコピペをすると自分の頭で考えることができなくなります。何がわかって何がわからないのか、自らはっきり区別できるようになるのが到達点です。全てがいつべんにわかった、ということは絶対ありません。何度でも読み直し考え直し、最後に、本当に「わかった」という感動を味わってください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 天野倫文，新宅純二郎，中川功一，大木清弘 編 教材名： 『新興国市場戦略論』（有斐閣，2015年） ISBN:978-4-641-16420-8 3,900円+税
	成長著しいBRICS等の新興国市場に進出する日本企業に有効な戦略・組織を探った，新進気鋭の研究者による総合的研究。多くの事例研究をふくむ。全3部のうち，「第1部 理論とフレームワーク」，「第2部 製品・サービス戦略」を取り上げる。新興国市場の登場が，国際経営と多国籍企業の戦略に与えた影響を扱う。
参考図書	諸上茂登，藤澤武史，嶋正 編著『国際ビジネスの新基軸』（同文館出版，2015年） ISBN:978-4-495-38511-8 2,800円+税
履修上のポイント	多国籍企業とは何か，「グローバル化」の現段階とは…など，本質的な問いを投げかけてみよう。新興国市場の登場が与えた影響のうち，とくに商品・サービス供給の質的量的な差異に着目し，今日の国際経営が当面する課題を考える。
レポート課題 1	著者たちが言う「新興国市場戦略」とは何か説明せよ。
レポート課題 2	新興国市場における製品戦略を，消費財と産業財に分けて整理せよ。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 基本教材1の「第3部 組織の設計・能力構築」 教材名：
	第3部の前半部（12～14章）において，新興国市場に進出・展開する際の組織設計・人材戦略を扱い，後半部（15～終章）において，日系企業のより具体的な課題を取り上げる。
参考図書	基本教材1の参考図書と同じ
履修上のポイント	多国籍企業は，現地適応とグローバル統合という，一見すると矛盾する課題をいかに「解決」するのか？ 日系企業が直面している課題についても，具体的に考えてみよう。
レポート課題 1	新興国市場戦略に必要な組織と人材について，とくに「現地化」の課題を具体的に述べよ。
レポート課題 2	新興国市場に進出・展開している日系企業の具体例を挙げ，戦略的特徴を述べよ。